



例 会 報 告  
「野中烏犀園の見学・薬草茶づくり」  
佐賀市（2025.3.16）

野中烏犀園（ウサイエン製薬株式会社）は江戸時代前期から続く創業 400 年の製薬会社です。代表で薬学博士の野中源一郎先生は、さが科学少年団の監査もお願いしています。まず、「佐賀の薬と医術の今昔」と題して、少年団スタッフの井上先生から資料をもとに説明していただきました。

そして、講師の野中先生にバトンタッチ。薬の歴史や生薬の特徴について分かりやすく説明をしていただきました。

薬は、江戸時代以前はすべて天然素材で作られていました。植物、動物、鉱物が原材料となり、試行錯誤を重ねて効果を確認しました。毒性のあるものも含めて試食され、命を落とすケースもありましたが、この試みが薬の発展に寄与したのです。次に棚に並んでいる生薬の瓶を取り出しての説明です。これには参加者も興味津々。実際に手に取ったり、匂いを嗅いだりして確かめました。

**馬糞石（ばふんせき）**:馬の結石で、カルシウム補給や骨を強くする作用、さらに気分高める効果があるとされました。

**蟬の抜け殻**:漢方薬としても利用されることがあり、一部の地域では「蟬退（せんたい）」と呼ばれる解熱剤として活用されてきました。

**ムスク**:ジャコウジカから抽出した香料として知られていますが、強心剤の薬としても利用されてきた。。

**冬虫夏草**:ガなど昆虫の幼虫にキノコが付着したもの。免疫力向上、抗菌作用、滋養強壮などの効果があるとされ、古代から健康維持や美容のために利用されてきました。標高 3,500m のチベットで採取したものを見せていただきました。

**水銀**:古代から医療や治療に利用されてきた歴史があります。日本では「赤チン」として知られるマーキュロクロム液が、傷口の消毒に利用されていました。伊達政宗の墓を発掘した際に水銀が見つかり、睡眠促進目的で服用されていた可能性ありとのこと。ただし、水銀の毒性が明らかになるにつれ、現代ではその使用はほとんど廃止されています。歴史的には興味深いですが、現在の医療では安全性が最優先されています。

ウサイエン製薬には約 5,000 冊の医学書を所有しており、佐賀大学の先生方が 8 年間かけても研究が終わらないほどの豊富な知識の源泉となっています。その一つに「解体新書」があるのです。『解体新書』は、1774 年に出版された日本初の西洋解剖学書で、杉田玄白や前野良沢らがオランダ語の医学書『ターヘル・アナトミア』を翻訳して作成したものです。細い線を駆使し、臓器の一つ一つが繊細に描かれていました。野中先生が和紙のページををめくる度に、参加者はカメラやスマホでパシャパシャ撮影していました。教科書で表紙を見たあの解体新書の全容を見ることができ、とても感激しました。

最後に、高麗人参やナツメ、クコの実などを混ぜて薬草茶を作りました。配分の違いから、「元気になるお茶」「健康維持のお茶」に分けて作りました。効果は以下に示します。

**高麗人参**: 臓器の機能向上。**ナツメ**: 滋養強壮、精神安定。**クコ**: 滋養強壮。**ドクダミ**: 血管強化、血圧低下。**柿**: 老化防止。**ハブ茶**: 豆を原料とした下剤および滋養強壮効果。

野中先生には、お忙しいところ私たちのために、たくさんの資料を使って説明いただきました。感謝申し上げます。（参加者：30 名）



馬糞石（ばふんせき）の観察



香りを嗅ぐ。効き目がありそう…



解体新書を前に撮影会



細い線で描かれていたよ



これが木版で印刷されているってすごい



野中先生による解説に興味津々



薬草茶づくりの説明を聞く



元気・健康の薬草茶を作ったよ